

天保八年和歌山藩下級武士女房の日記

藤田貞一郎

一 解題
二 史料

一 解題

ここに紹介する史料は、表題にも明らかなくとく天保八（一八三七）年和歌山藩下級武士の女房の日記である。今所、筆者名を明らかにすることは出来ない。後日、傍証をかためた上で、確定するつもりである。——日記の筆者は、和歌山県立図書館にある小梅日記の筆者の母親ではないかと思われる節もある。

が、今はたんに推測にとどまる——。亭主の地位は、あるいは藩校の教師ではないかとも思われる節があるが、今はさしあたり下級武士とだけしておく。

原史料の体裁は、横は約十一センチ、縦は約十六センチ、表紙ともで五十八枚からなる小冊子である。表紙は三分の二ちかく破損しているが、「酉日なみ」と判読できる。裏表紙にははっきりと天保八年と記している。天保八年一年間の日々の生活を、女房の目こまごまと書つづつたものである。亭主のことは「主人」ないし「兵蔵」ないし「豹蔵」と記しており、「豹蔵」という表記には、勤めをはなれると酒が好きで宴会も

好きだという亭主に対する愛情を感じさせてほほえましいものがある。

この史料は、現在、和歌山県海南市黒江の片山卓蔵氏の所蔵になる。今日まで長期間の利用を許された氏に、深甚の謝意を表したい。

この日記の元日から四月晦日までの四カ月間の記事は、同志社大学人文科学研究所編『社会科学』第五巻第一号、一九七四年に掲載した。今回、機会を得て、その続きの部分、すなわち五月朔日から大晦日までの記事を活字化することにした。この日記の筆者によるものとして、今一つ弘化五(一八四八)年の日記が残されている。これまたいつか機会を得て活字化し、多くの人の利用に供したいと考えている。

ここで、日記の活字化に一体いかなる意味があるかという疑問が当然予想される。これに対しては、徳川期の下級武士あるいはそれに準ずる階層の女房の日記が一般に紹介された例は、管見の限り従来皆無であるということを一つあげておく。それに又、激動の時

代といえは一日たりとも激動の時代でなかったことのない人間生活における生きとし生けるもの日々の喜びと哀しみを知りたいという、紹介者個人の歴史に対する興味が、この作業の動因である。

この日記を対象にしての私なりの感情の吐露は、弘化五年の日記の紹介を終えたところで記したい。

なお、筆写にあたっての約束は左の通りである。

一、句読点は、紹介者が適当につけた。

一、ただし、文章中、大きな○印があるのは原文のまま写し取ったものである。これは日記の筆者が、記事の内容を区分するために時に付したものと推定される。また日付に近接して○あるいは●あるいは○あるいは●あるいは●の印があるが、これも日記の筆者の記載になるものである。これは、晴天、午前雨天、午後雨天、雨天などを示す記号である。

一、異字、俗字、略字はなるべく原文のままを尊重した。但し江、者、候、茂、等は、すべて上記の書体に改めた。ははのままにした。

(一九七四年三月五日)

(附記 解説に当って、同志社大学人文科学研究所の仲村研氏のご教示を得た。記して深謝の意を表する。もとよりあり得べき誤読は藤田の責任である)

二 史 料

五月朔日○快晴。内村又十郎殿来ル。お富、小さよ方へやる。小さよ来ル。

又、お鹿、富永へ手伝ニ行○畑屋敷ヨリ柏餅持来ル○お元、あま鯛三枚持来ル○小さよヨリまへ取又廿五匁借入。品物小梅ノ帯ノ筈。母君ノ拾代ニかる。右ハ払に入用。右八十日ノ比、取てもらふ筈也。暮方、お富本六冊持て、富永へ来ル。八ッ過ヨリひもろきヲたへ入て持て、内村氏へ行。岩一郎ヲつれて也。暮過帰ル。

二日○曇。東へ井桜借に來り、夕方柏餅送らる。主人夜、夏目江いたる。

午後、雨降出ス。

此日、乞食小屋ヨリ死人五人出スよし。道ニ行た

おれ者毎々有。小共迄も杖ニすがりて歩行。誠ニ哀れなど、言もおろか也。

三日○少く雨降レ共早東上ル。今日も小さよ来ル。七百文質置。右小弁へやる裏ノ代也。金帯歩八百や岩ト安トニやる。今朝又川三ニて米五升借用。勇次取ニやる。則右ヲつく。又池田へ小鯛ト貝五ッ程送らる。此日乞食小屋ヨリ八人死て出スよし。

四日○照曇。午後、すしつけて喜多村、鈴木、有馬、富永へ遣ス。キタ村へさば、菅本貫。鈴木ニて松風菓子半分賞。伊藤氏さそひニ來り、志賀へ行。貴志小あじ式本貫。内村小たち魚十本斗貰ふ○風呂たく。小梅不入○直川や、泉や、中嶋や、米喜、同久兵衛、皆ことハリ言○八百や小弁、桔梗や、是らへ払。お富又富永へ行、今晚、村松ノ子そう送のよし。ほうそうニ而死る由。

五日○快。八ッ前より内村又十郎來。夫より富橋、同人ノ母、貴志ノ母、亀松、松下七郎、同人母、酒出ス。夕方いつれも帰ル。夫へ長屋嘉兵衛ト勇

次、お久来。酒振廻。扱又、昼、東氏へすし沓鉢送る。昼、忠兵衛へ送る。寿代へミやけ、甚左衛門江ミやけ、皆々快相済。目出度事也。

六日○。加納殿帰らるニ付夕方ヨリ主人蔵主宿へ悦ニ行。又、夕方ヨリお富るすへ置、家内つれニ而梅本へ行。跡々主人来ル。四ツ時帰宅○昼、勢碁石井満之介々ノ書状御用部屋安野氏へ届ケらる。夜開封。石卯沓ツ送らる○梅本へたけのこ沓本と板くすし沓本やる。のぞき一。今日ヨリ入梅。

七日●。松下々昼過小さいぎ五尾もらふ。夜、村井多右衛門来、百文ノ酒求て出ス。

八日○快晴。夕方、遠藤蔵主より大魚一ツ、小たこ一ぱいもらふ。江戸ミやげ也。夜は帰りてたべける。主人用事有て畑屋敷へ行。

九日○。川上酒六升来ル。内三升ハ松下分。直段ふ知。紅葉山と言名也。とみ永々空豆少々貰。こちら々又かの酒小徳利ニ一盃遣ス。日高や来ル。何やかや取。

十日○お城当番四ツ時帰ル。酒少々持て三宅江行し所、易病氣(カ)にて酒不呑由にて夫々内村へ行、夜帰ル。

十一日○遠藤蔵助礼ニ来。酒出ス。楠元来り、同道ニ而有馬へ行。五ツ頃帰ル。米五升取、代二百拾八匁ノ由也。

十二日●昼比学校江行。先達而、林敬次郎方ニ而借用ノ赤穂義士伝五冊返ス。夕方、三宅氏々遣者来り、夫より行。又、中村とやらん言人と同道ニ而新道の前田次左衛門方へ立寄と聞し。

十三日○快晴。夜、藤四郎つれ帰る。酒出ス。廻状来ル。民部様御死去ニ付、てうし十五日迄。

十四日○曇ル。八ツ比々山本へ行。会也。長やの嘉兵衛はたけする。さばノ煮たノとめし沓杯遣す。

十五日○廻状来。民部京様御停止十三日(マ)る七日ノ間也。柴田仁安弥々七ツ前ニ来ル。中野へ相廻ス。なすび廿三本ヲ七十文ニ而求てうへる。岡崎やニて紙取。但、停ノ字の右の肩にすき切レていの物

見ゆ故に、使江ことわる。

十六日○早朝火事。鈴丸そうけん寺前塩屋の裏ノあキ
やのよし也○午後、銭や喜十郎来ル。酒出ス。

十七日○少々寒し。八軒や夕昼時分酒三升来ル。富永
へやる。但、富永ヨリ頼レ取て遣ス也。

十八日○長屋嘉兵衛ノ姉おやすへ餅米三升銀札二枚ト
柴一わかす。右ハ当晦日までニかへす約束也。

○銭喜ニ而筆取。四分壹本。二分五厘一。三十二
文一。又三分二厘四本也。米壹升、そら豆五合
取。

十九日●今日も米ふ出候ニ付、米壹升ト空豆五合取。

一日何事もなし。

廿日●朝の内少々小雨降、午後より上ル。米貳升ト空
豆三升取。畑屋敷の米や也。そら豆壹升ニ付、百
三十文也。

廿一日○朝、藤四郎来ル○御扶持方出ル。壹俵キ八へ
ヤル。貳百貳拾五匁ノよし也。長屋嘉兵衛へ二白
つかす○川三死ス由聞。

廿二日○今日学校当番。

廿三日○富永楠枝八ツ時分ヨリ来ル。さバ三本ミやげ
也。岩一郎むかひニ行。江戸絵一枚貰ふ。すしつ
け隠居へ一重、幸之丞へ一重。くじら吸物だけや
ル。

扱、附おくれしか、廿一日ニ扶持方出ル。内貳俵
米や喜八へやる。代二百三拾匁ニ私。壹俵川三
へ。壹斗六升内貳升だちん。

廿四日●雨天。御扶持方出。三俵出ル内、壹俵川三
へ。岡本ヲ使来ル。すて藏病死の由つけ来ル○松
下お唇(マツ)じまきのよし。ばせをの根遣ス○お鹿来
ル。右はすて藏死去ニ付、つつしみ仏参也。

廿五日○内村又十郎へ行。竹ノ子貳本遣ス。右竹の子
ハ夏目ヨリ三本、富永ヨリ五本貰。富永へ米七升
かす。今日、米の相場石ニ付二百七拾目のよし。

廿六日●岩一郎のかたひら求。代拾七匁也。壹丈七
尺。又貳匁三分。白四尺切。山形や又兵衛ニ求。

廿七日●終日何事なし。お鹿、富永へ帰ル。

廿八日○快晴。だんじり見物に行ズ。母君、岩一郎ト

お里をつれ見に行、夕方帰ル○七匁ニ而、小梅一
重物受合り。九分銀札八枚。山形屋ニ越後嶋耆反
求。代三拾五匁四分九リノよし。耆反池田へ見セ
而、則かふ。だんじりも列(ママ)よりハ何事もしつそニ
はやし方ハめん服也。夜ニ入ハ時節がらにて気遣
ハしくゆへ、夕方皆帰ル。

廿九日○当番。但学校也。行ク者皆お医師願の上、非
人小屋へ至り見しかど、疫を受候ニ付、相やミ小
屋も打くづしたると聞。

晦日○今日昼過岡本ヲ使来ル。梅野死去のよしつげる
○お富京仙橋伊勢やへ遣ス。質物受。札三拾九
枚。色数四ツ。廿五文ふ足。四匁六分ニテ四尺切
二ツ求。八過々山本彦十郎殿へ弁書御試の書持
参。

弥々世上疫病流行也。其上うへ死夥敷非人など取形付(ママ)
ル者もなく、女の死がいに犬付いたるを見受たる者有
よし。寄合はしの上る飛込、橋のあちら々こちら迄来

ル内ニ死たるよし。非人ハ皆竹杖ニすかりてあるく。
京都ニ而もうへ死多く、中々上るも形付行届かぬゆ
へ、四角(ママ)大穴ヲはり死人ヲなげ込、千人ニミつれハ
大とう明のヲ立、僧集りてゑかうす。其穴六所ニ出来
たるよし也。先五月中頃迄六千人。身なげ七十余人き
きしが哀といふもおるか也。言語ニたへたり。米ハ二
百七拾匁也。当地ニても非人小屋かなへ丁と夢のめや
う堂ト今一所あるよしなれともつづかす。此節皆打こ
ぼちたると聞。

耆ケ月の内快晴二十四日雨少シ。

六月朔日○八ツ前ヨリ母君岩一郎ヲつれ日前宮へ参
詣、夕方帰宅。但、お唇との病氣平ゆうの為也。

二日○お富婦り寺参ス。銀札二枚寺へ廻向料。(ママ)豆府や
又兵衛ノ養子来ル。米五合かたられ候。

三日○少々風立。金考歩貴志へ小紋かたびら代相渡
ス。扱又長屋ノ勇次あそび居ルニ付あきないのえ
だけかし遣ス。但、小式朱一、銀札耆枚と也○八
軒や酒やヨリ酒五升持参。内三升三宅氏へ。三宅

ヨリ竹ノ子八九本もたせ越。則酒持帰ル。

四日○列ノ会日ゆへ、志賀、伊藤、山本来らる。岩橋

ハ昼前来り、ことわり、初更ノ頃帰らる。此日不

狷着なく、九右衛門方ニ而いさきの干物巻尾取来

ル。代四分五厘。百文ノ玉子買、夫レノミ也。白

井御同心七ツ頃来ル。銭やヨリ会日ノ事申来ル。

八日ニ致し候由。

五日今日白井仙構じゆ者被仰付、独礼。午時、水大夫

君ヲ使来ル。但、大刀からみ箱入○鯛三尾○酒三

升。手紙はなく、唐紙半切へ。

破悶一瓶酒長喰ふ吞中トしたためて贈りこし給

ふ。誠ニ厚キ慮与也。わするべからず。扱、内巻

尾ト酒巻徳り松下へ見廻ニ遣。又巻尾ト一瓶酒三

宅氏へ持参。巻尾ハ宿ニて打寄て用ゆ○長屋勇次

カしじみ一盆持参也○梶取や乙娘お久時疫ニて病

死ノ由、松下ヲ知らず。今日そうそうの由也○夕

方、春蔵さそひに来り同道ニて白井へ行。客者拾

六人のよし。三尺贈ノよし。八ツ前帰ル。

六日●水大夫君より贈らる所の樽開き申ニ付、岩橋氏

来ル。糸川ト外ニ夏目とやく束なれとも不来。夕

方迄酒呑、かゆ振舞。岩橋同道ニ而三宅氏へ行○

廻状来ル。大まん所者御孫子御病死。しかし、て

うじニ不及。右江川へ相廻ス。松下病人も段々よ

く、上ヲいたたきしをもらひしとてある餅菓子巻

ツ岩一郎へくれる。学校当番。八軒や酒二升持

参。右内村ノ分。

七日●時々雨降。其間ハ至て天気よし。昨夜三宅氏と

やく束いたせしよしにて、八軒やヨリ持参酒式升

上ル○江戸吉田善之助ヨリ書状致来ス。村井多右

衛門并定次郎来、本二冊かへさる。夜畑屋敷梅本

へいたる。米代請取。百目米巻俵。夏目藤四郎

来、酒出ス。小五ひ二十斗持参。

八日○朝少々雨降。三宅氏より酒かへしに来ル。夫

手帗付て八軒やノ酒屋へ使やる。藤四郎、文太郎

つれて来ル。酒并ニかゆいたす○銭や本頼母子夕

方ヲ行。本園内村氏取。芳太郎ぶらり筆三つ以。

九日○夜、藤四郎、平七来ル。酒出ス。夫々川三へ藤

四郎同道ニ而行。少く曇ル。

十日○快晴。軽女院少く腹痛ニ而金ひらへ参詣せず○

お高来ル。

十一日○早朝、金ひらへ母君参詣○田宮儀右衛門来ル

○白井中間会談七ツ前ヨリ行○酒式升持参。右ヲ

池田氏へ取次遣ス。

十二日学校当番○白井ヨリ大はまち一遣ひ二ツ貰。右

を内村氏へ遣ス。

十三日○今日より浅之介来ル。松下お才も同じ病性ニ

而すぐれズと也。

十四日○早朝、お直来ル。梅本十三回忌ニ付、ろうそ

く八十送らる。こなたヨリ金老朱送る。夕方より

やすのをつれてゆく。豹藏志賀ノ会ゆへ行しなに

参詣。

十五日○祭礼。今朝八軒やヨリ酒三升持参。内卷升松

下へわける。夕方浅之介来り、又小梅、岩一郎を

つれて遊びに行、豹藏跡る来ル。夜四ツ半帰宅。

盃二ツ、すし巻かハミやけにもらふ。

十六日○夕方内村又十郎大切の知らせ来ル。直さま豹

藏ゆく。留主中へ、会ゆへ夏目藤四郎来ル。又田宮

も来ル。帰らんといたしをとめ、酒出ス内、豹藏帰

り、供(マ)ニ一盃をかたむけ、夜子ノ刻迄雑話スル。

十七日○夕方ヨリ内村又十郎苑送見立に行。池田長屋

ノ音右衛門遣ス。明り出し、今日ヨリ土用ニ入。

百文遣ス。此節人の死する事夥敷中にも、内村氏

など夢の如くなり。

十八日○朝市へ行き、かぶらはねときんこ求来ル。セ

ミの声初て聞。キンコ百六拾匁ニ付代六匁五分。

夫レヲ半斤買来ル。

十九日○学校当番。夕方ヨリ藤四郎来ル。酒百穴ノ

求。肴二尾ハ藤四郎求。帰りて後小梅湯をあみて

少く風ひく。

廿日○夜、岡崎やへ薬取ニ行。まんちう切て。但、数

三十求。右を持参也。内村又十郎ノ逮夜へ行等。

廿一日○白井ノ長屋ノ兵藏と言物井戸ノはねつるべ拵

ニ来ル。惣何やかや入用金老歩ト百文也○序ニ床も直し。夕方ヨリ内村又十郎たい夜ニ付参詣。小梅、岩一郎も少々ツミ風氣ニ而しやう気さんセンじ呑○五十文斗不足。

廿二日○評定所講尺当番。^(マ)昼前帰。

廿一日老奴二分五りかへノ薬五斤もてくる。

廿三日早朝、畑屋舗へいく。あぶらかす約そくして、

長屋の嘉兵衛取ニヤル。老玉分代七匁がし。六味丸も持帰ル○夜ミつ取ニ岡崎やへ行○夕方ヨリ浅之助同道ニ而丸ノ内田宮氏へ行。九ツ過帰ル。

廿四日○御扶持方出ル。九斗押。式斗川三へ、但老儀ヤル筈なれど、三之丞病死ニ付当盆前ニ借用ととのハす、其替リニ四斗ノ半分わけ也○小浜利吉暑気見廻ニ来ル。ねり薬一箱持参。酒出ス○皆川清蔵ト云人小いな三十斗くれる○八軒屋ヨリ酒老升持来ル○拾五匁藤四郎ニかり来ルよし也。

廿五日○お富休ミに来ル。かゆたき乞食共へヤル。平蔵来り遊ぶ。

廿六日○早朝、お富帰ル○看求。大鯛式枚。小耳鯛一ツ、是ハ宿のさい也。右大鯛式枚ヲ加納氏江戸戻り悦として送る。老女藤田へむけ文ヤル。池田ノ長屋音右衛門ヲ使とす。ゼに三十文遣ス○八軒ヤヨリ酒三升こす。是ハ田宮氏分、則田宮へ右をしらせに長屋のお里ヲヤル。此夜少々雷鳴、小雨降ル。

廿七日○少々曇ル。扱今日までニ川上酒式斗五升取、尤取次とも也。但内二升ハ三宅氏よりかへす。夫ゆへ式斗三升也。代ハ老升ニ付式匁八分がへと承り候。早朝、多右衛門来らる。早束帰らる。田宮熊三郎ヨリ土用見舞として着二送らる○夕方浅之介ヲ田宮へ遣候所、其夕方酒取ニよこす○主人少々ふ快。銀札一枚ニ而かつを三本求。打寄てくふ。

廿八日○七ツ前頃より雨降ル。八ツ頃岩橋楠松ふと来ル。本三冊かす。莊子因式本、莊子老本と也。貴志よりあられ少々貰、并ミ贈と也。浅之介ハあ

ゆ三ツ、薬三服送らる。夕方、富永よりいな十ヲ、小きうり二ツ貰ひ候。松下氏先礼ニ来る。いまだお才悪シ。昼前、芳太郎来り、津田幸次郎御用出ノよし告る也。しかし、不快ゆへふ行。

廿九日●終日何事もなし。母君小きよ方へ蚊屋ノ事ニ付ゆく。浅之介ヨリミ贈もらふ。

卷ヶ月の内、雨天丸三日程。

七月朔日○小きよ来り、かやノ取斗、銀札四枚遣。昨日ノ雨ニて米価下ル。十丁かた今日迄二百六拾四匁ノ処、今日より二百四拾八匁ニ相成よし。麦百四十六文ノよし。

二日曇ル。畑屋敷米や久右衛門ヨリ金三兩貳朱、百八拾九匁七分五リ請取、米貳俵代。但、二百六拾三匁ノ約束ノ処、五升ちんを引さし引百八拾九匁七分五リ也。永井円左衛門来ル。菓子持参。泉やヨリふんごみ持参。お富ミツ持参し、夕方、藤四郎来、めし遣ス。此日、堺丁梅本五兵衛十三回忌しやう月名日也。西瓜一ツ求、代百三十文。

三日○終日何事なし。但、喜多村隼人土用見廻ニ来ル。米直大分下り貳百四拾匁ニ相成り候。但、極上ノ所者やはり五拾匁ノ由也。

四日○学校当番八ツ前帰ル。夫より又伊藤会ニ而行。三百五拾文、肴五ツ。内二ツ者津田幸次郎へ結構ノ悦ニ遣ス。

五日○早朝、畑屋舗へ行。右ハ富永より頼来ル御手形の事ニ付。八ツ半頃より暑氣見廻三行。富永ニ而酒吞帰ル。七ツ過頃、藤四郎来ル○百文、ふんごミ○三十五文から瓜五ツ。

六日○勢州石井より状来ル。小きよ方へ内ミノ用事有、母君行しに、よめ大病ニ而埒明ズ。

七日○早朝、銀札九枚ニ而白衣取ニお安ヲ遣。となり長や音右衛門ニ髪結わく。美濃ヨリ状来ル。夜一丁目へ扇置ニ行○八軒屋より酒二升持参。

八日○猪三郎弁当持参、酒出ス。岩一郎も同じく酒吞たるに、其後寝て夕方よりねつ強きゆへ紅梅、黒焼などのませたるに、夜四ツ頃引つけ、夫より前

田宮へ遣やりし所弟子来ル。夜九ツ頃、林ヲよびニ行。ふ来、薬五服こす。田宮よりも五服〇大田妙堂ノ僧来ル。弟子ノ事頼ム。

九日〇今朝ハ大分岩一郎もよく候へとも、ねつまださめず。夕方浅之介帰りしなニ田宮へ寄てもらふ。

夜、弟子見廻。又薬五服と猪たん一貝ともたせこす。夜よくねる。

十日〇今日早朝浅之介絵碓籠持来る。猪三郎書役申付らるよしニ而、早束帰。お富手伝ニ来ル。夕方より梅本猪三郎方へ行。

十一日〇田宮見舞ニ来ル。岩一郎大分よし。

十二日少々雨降。昼頃一盃酒ヲ池田夫婦、貴志隠居へ振舞。岩一郎も機嫌はルゆへ〇喜多村ヲ式朱松下へよこす〇富永ヲ酒代こす。浅之助祝義持参。夜

田宮へ行、留主。鈴木へ行、留主也。

十三日少々雨降。母君仏参。尤早朝也。

十四日〇極暑也。土用より暑は強シ。くず一箱梅本よりノ分ニ而富永へ送ル。八軒や酒式升持参。岩橋

楠松来り、内村ノひノ事言。

十五日〇極暑也。豹藏山本先生へ行。梅本へ行。清左衛門昨日死、則葬送也。尤、今朝知らセ手紙来

ル。夫より糸川へ立寄、湯あび酒吞帰る。まんどろ三十山本先生へ送る。

十六日〇極暑也。たへかたき程也。夜、三宅へ行、四ツ頃帰ル。

十七日〇今日も極暑。長屋ニゐたりし勇次来候ニ付、八軒や酒屋へ手帋遣ス。酒直段四分上りしうへ酒あしきゆへ、取かへくれ候様申遣ス。弁藏来ル。

昼めし出ス。嘉兵衛の母来ル。田宮より手帋来ル。明日会日ゆへ参りくれ候様とのよし也。醬油半樽うら橋ヲ持参。

十八日〇学校当番。帰りかけ余り暑き故、もんだ所ニ而、西瓜半分取、直ニ持参。直段半分ニて百六十分。くず銭喜ヲ持参。一二匁ノ一箱。一袋一匁五

分。八軒や酒持参。是ハ十五日ノか悪敷故取かへ。但、二升也。直段三匁二分ニ上ル也。内村楠

彦々茶ノ子来ル。夕方田宮へ行。

十九日○浅之助来ル。ふ快ゆへしはらく休業スと言。

廿日○早朝、お鹿立寄。岡崎やへ遣ス。さとうト薬と

取也。七ツ頃誠ニ少々雨降。内村へたいやニ参

する。四ツ頃糸川弥蔵ヲつれ帰ル。小かつを壱本

持参、酒出ス。弥蔵帰後、貴志隠居よひ残酒のま

す。

廿一日○少々涼しく曇る。浅之助来り、学問す。長屋

勇次夜店出スよしにて、肴調へ料理す。然る所夕

方より大雨。料り物札一枚遣し取寄ス。宿にて打

寄のむ。夕方、喜多村隼人来ル。昨日評定所へ罷

出候様申付らるるよし風聴ニ来ル。

廿二日○大ニ雨降。百性其外人々大悦。米相場百八拾

匁ノよし也。わた壱斤ニ付三匁がへ。麦百拾六匁

のよし也。午後、長坂愛之助来ル、酒出ス。古本

六匁ニ浅之助へ売ル。十五冊程。

廿三日○今日学校当番。

廿四日学校当番。昼後より岩橋楠松来ル。志賀、伊

藤、山本、糸川来、五ツ前帰らる。壱匁五分肴宿

ノ入用。又式匁鯛一ツトなます二ツ、右ヲ猪三郎

書役ニ成候祝義。母君、お里ヲつれ行。そうめん

にくれる。

廿五日○御扶持方出ル。八斗五升内六斗川三へ、壱匁

宿へ。松下へ壱斗、いまた代ふ来。右代拾九匁

也。百九拾匁ノ勘定。

廿六日○徳左衛門米壱斗取ニ来。松下ノ使。夕方岩一

郎ヲつれて田宮へ見て貰ニ行。主人ふ逢、弟子ミ

やく見て薬くれる。三服。

廿七日○風有涼し。夜、および三服ノ薬吞仕廻。矢張

ねつさめず。暑邪ノよし也。小式朱一ツニてもめ

ん切五尺ト又式尺四寸求過百文程也○夜、あまり

ねつ強きゆへ、主人田宮へいたり猪たん乞。夫よ

り弟子見廻ニ来ル。則、猪たん持参、薬三服。

廿八日○肴勇次ニかひニやる。いさき三つ、薬三服も

らふ。松下る米壱斗代持参、百九拾匁ノ勘定也。

壱斗ニ而拾九匁受取。

廿九日○薬五服。米老斗払、此代拾六匁。なし皆で七百五十文ニうる。田宮儀右衛門来酒出さんと取ニゆかし候共早束ニ帰らる。

晦日○今日ハ岩一郎も全快ニ見ゆ。なすび廿五ヲ六十文ニ而買。

老ケ月ノ内雨天二日半日也。米相場式百匁也。

八月朔日○出勤セズ。何事もなし。梅本藤四郎千太郎ヲつれて来ル。酒飯ヲ出ス。しばらくして帰ル。

ぶどう五百目ヲ百三十文ニ而買。八軒やヨリ酒式升持参、三分五リ。

二日○学校当番。今日より三日ノ間、お鹿休ミニ帰ル。内村へ立寄、同所ノ用事ニ而、高岡江ゑん組ノ断ニ行。梅本へ香備(マヤ)ヘニ行。はすいも式拾二本ヲ払、老本二匁ヅツ。

三日○今日ハ二百十日也。天社日也。至極宜天気也。

長屋ノ勇次ヲ高野御前氣鎮神社へ代参。小梅、お鹿直川へ参詣。いづれも昼時分帰宅。田畑ノ物、誠(マヤ)に農作ニ見ゆ。米など見るニ出来たり。大かた

出かけ也。あハ、まびハ今かり居る。いも類ハ少シ。わたも大抵也。

四日●昼前より降出ス。今日志賀の会ニて行。風雨也。夜、七郎殿久代つれ来ル。

五日●朝ノ内は雨降。夏目藤四郎来。酒出ス。

六日○長七来り、はたらく。二百文遣ス。夕方より岩桶桶松来ル。扱、明日舟行約束なれとも、川水老丈三尺出たるニよつて、富永よりことわり言。

七日○今晚、浅之介、林敬二郎、三田村主計会ニ而来ル。四ツ前帰ル。

八日●学校当番。少く雨降る。内村ミつき忌明ニ付札ニ来ル。夜、梅本へ行。

九日●大ニ雨降。やミなし。昼頃内村桶彦来ル。水老丈五尺程出ル。死人式百人余流レ来ルよし也。誠ニ珍事聞もいぶせし。

十日○中ノ間当番。夜、畑や敷へ行、板一枚貰帰ル。十一日○昼頃梅本内室来ル。飯出ス。やくし丁遠藤へ遣やる。此夜ハ降出ス。

十二日●終日降暮し。

十三日●富永ニ而つむき嶋老反取寄る。代四拾四匁五分。米、麦、粟皆直上り。十丁ツツ上る。米貳百匁ニ相成よし。

十四日●昼過る天氣風吹出し天氣上ル。昼過る山本彦一郎殿へ会ス。はたけの午房皆引ぬく。此夜快晴明月也。

十五日○酒壱升八軒ヤヨリ持参。八ツ頃ヨリ下条ノ下屋敷へ会ス。中間中行。夜四ツ過帰宅。夫ヨリ大雨雷鳴○昼、加茂信之助来。但、箱入猪口一持参○夕方、小梅松下へ見廻ニ行。水壱丈五尺出ル。米貳百二十五匁ニ相成。

十六日●雨天。学校当番。今日ヨリ岩一郎うけニ入ル。くし源の丸葉のみはしむ○夕方ヨリ畑屋敷へ行。水野を使来ル。今晚ハ天氣合ニ付、相やめらる○下駄沓足取、中嶋や。

十七日○日高や来り、皮の巾着求。代貳匁。富永がふとんの皮染りしとて持参さす○梅本平七来、酒出

ス。

十八日○朝ノ内学校江行。終日事なし。田宮ヨリ断ニ使来る。夕方浅之介来。

十九日○学校江出勤。夫直に内村ノ事ニ付て三宅氏へ立寄。酒飯ニよべる。此夜九ツ時分内村楠彦召状ノしらセ手紙来ル○宵ニ松下女人四人つれニ而病快氣の礼ニ来ル。但、すし沓鉢持参。此夜きのへ子まち。

廿日○夕方、有田原鹿忠二郎と言物来り、一夜とめてくれと言。断、めし出シ、(ムシ)百銅遣ス。吉田君之介母小肴五尾くれる。

廿一日●長坂ヨリ頼ノ献備、学校江持参。八匁出シ、米貳斗出シ候筈。右ノ取扱相頼候仁へ、葛一箱遣ス。但、代貳匁。

廿二日●今日积尊。朝七ツ頃起て、六ツ過るゆく。九ツ過帰宅。夫水太夫忌ノ下屋敷江同僚揃ひ行、四ツ頃帰宅ス。萩花持帰ル。

廿三日●夜、主人畑屋敷へ行。昼から天氣能なる。

廿四日○快晴。御扶持方三俵出ル。此内尅俵例之通川

三へ遣ス。夜、伊藤へいつももの会ニ而行。

廿五日○鈍天。^(天)池田々茶ノ子来ル。今日、内村又十郎

ヲ祭ル。水野大夫忌より被下酒肴をたまふ。内村

楠彦ヨリアジ三ツ。糸川小鯛五尾。小さよ来り、

錢三百五拾文借シ遣ス。酒壺升五合取○米尅俵喜

八へ払。右式百拾五匁也。

廿六日○母君仏參。香でん。池田へ酒尅徳りトならづ

け一本。午房尅。

廿七日○信衛七ツ過々来ル。夕方、豹蔵帰る。但、蔵

主つれ帰り、酒出ス。酒壺升、すし尅鉢、但、式

匁五分。会ニ而、梅本、林、三田村来ル。信衛ニ

絵一枚遣ス。環海異聞借ス。

廿八日●内村楠彦へ行。米尅俵ヲ三人して内村へ送ル

約束也。但、三宅氏ヨリ式斗、岩楠五升、志賀

同、伊藤同、川合同、合て尅俵米也。但、銀十匁

遣シ置。錢やニ而醬油一樽取。榎本々茶ノ子来

ル。夕方ヨリ松下氏兩人快気ニ付、御礼参りニ高

野寺へ參詣ノ約束之処雨天ゆへ千度参り成難く延

し、しかし皆よへれる。酒飯のもてなしニあつか

り九ツ頃帰宅。お富、妹松の来り、昼飯出ス。八

ツ前帰。

廿九日●池田法事ニ付主人七ツ頃ヨリ行。田宮氏ヨリ

使来ル。喜八へ米五升払、代十匁トゼに五十文。

石式百十匁がへ。右ヲ兩人ノつかひ料。但、母君

と小梅との事。

晦日○鈍天。^(天)志賀へ行、帰りがけ古手や山形や庄五兵

衛方へ立寄、羽織買、代三拾匁ノよし。

尅ヶ月ノ内晴天十六日也。

九月晦日○神像祭り。松下七郎殿、喜多野左右衛門

来、酒出ス。酒半斤取。^(天)小さよ来。何か雑事多

シ。夜、遠藤兵右衛門、村井多右衛門、榊原殿之

助来ル。多右衛門いな五、はつたけ少々持參。遠

藤まんちう二十、酒券一持參。尅匁五分。すし尅

鉢○駒屋ノ酒壺升取○羽織山形屋ニ而求、代三拾

匁也○前大納言様御任官正二位ニ御任官被遊候ニ

付、今日御悦と^(マシ)□て登城可仕回状来ル。のしめ。
しかし出勤せず。

二日○十倉竜助来、酒出ス。七ツ過、三宅ヨリよひニ
来ル。留主中へ嶋六郎左衛門の男逢ニ来ル○会ゆ
へ梅本、三田村、林来。山形屋ヨリ人来ル。四日
市式尺式寸、代式刃四分払○岩一郎と梅女と松下
ノ家内ト高野寺へ千度参りする。松下兩人病全快
ノ御礼之為也。帰りかけ松下へ寄御ミきのミ帰
る。

三日○御庭拝見ノ事、昨日嶋六郎右衛門ノ男つげ来ル
ニ付、岩橋楠松へ知らせに行、帰りニ岩橋ヨリな
す、かき、たハこ被下あまり大き成ゆへ道すしノ
梅本へあつけ来ル。後に梅本ノもリ右ヲ持来ル。
七ツ前より嶋氏へ行。夜四ツ前帰ル。肴求来り、
夫より明日ノすしつける。

四日○同僚中舟行ニ付、丸すしつける。夜前ノすしふ
出来ゆへことくつけ直す。昼時分出来候ヲ二
重へつめお里ニもたせて伊藤へむけゆく。夜四ツ

時分帰ル。三宅氏へ寄帰ル。

五日○学校当番。昼前より行。夕方岩一郎ヲつれ畑屋
敷へ行。浅之助方ニ而よハれ帰ル。

六日○七ツ前より母君岩一郎薬師丁遠藤へ行。七ツ過
豹藏回状持、十倉竜助方へ行。留主中坂本やヨリ
本持参。榎本清助忌明礼ニ来ル。

七日○酒壺升持参八軒やヨリ。

八日○所々より書出し来れとも先両度ノつもり也。但
八百やへ銀札四枚遣し候。酒四升

九日○御城へ出勤後、長坂楠太夫ニさそはれ舟行ス。

夏目藤四郎其外三四人つれ夜五ツ過帰宅。いな二
本ミやけ也。昼、村上ノ娘寿代、池田、貴志等来
り三味引遊ぶ。

十日鈍天。今日玉津嶋へ参詣ノ約束にて富永ノ家内昼
時分ニさそひニ来れとも天気合にて見合延引。夫

酒壺ツ吞て、竜酒寺へ参詣帰りニ金ひらへ参
詣。富永へ立寄。酒ヲ出し種々馳走にて、暮方
帰。夜々大雨也。

十一日●大雨。水丈五尺出ル。扱十日ニ豹藏事中ノ
嶋辺江詩会ニて行。小出かずヘノ別荘ノよし。遠
藤一郎百竹葉同道深更ニ帰ル。十一日ニハ降暮
し。何事もなし。

十二日○学校当番後、村井多右衛門がさはれ栗栖辺
ノ祭ニ行。定次郎同道。今日会やむ。岩一郎ヲ田
宮へつれ行、きうてんヲしてもらひ帰り、昼頃始
てすへる。へそばさみちりけすぐうへ也。誠ニ泣
もせずりきみいる事おとなしけれハ種々ちん遣し
候也。五ツまへ帰り、其後畑屋敷へ行。きび式升
取帰ル。直段九分ヅツ。

十三日●朝ノ内小兩降上ル。八ツ前本居弥四郎来ル。
七ツ前ヨリ、水大夫君江行。橋爪ヨリ申来ル。夜
月半よし。

十四日●八ツまへより岩橋楠松宅へ至る。夜九ツ過帰
ル。明月也。

十五日○今日祭礼也。薬師丁遠藤家内約束なれともふ
来。夜、池田家内来り酒吞遊ふ。此夜誠ニ明月也。

十六日○快晴。昼過る梅本浅之介、林敬二郎、岩一郎
ヲつれ、鳴滝へ参詣。当時、滝出来たるよし也。
母君、寿代ヲつれ日前宮江御礼参り。小出かずヘ
礼ニ来ル。内村ミつぎ書物頼母子ノ事申来ル。

十七日○快晴。富永ノ家内ト寿代ヲ同道ニ而、和歌玉
津嶋明神へ参詣、塩かま明神の前ニて弁当したし
め、夫より夕方帰ル。皆立寄宿ニ風呂あり。皆入
り支度して帰す。会ニて浅之介、敬二郎来ル。
又、会后村井多右衛門ヨリよひニ参り主人行。三
宅殿来ゆへ也。盛待也。ざとう来ル。けい子来よ
し聞。

十八日○朝三宅より使来ル。今晚村井ノ家内来ルゆへ
参り候様ニとの事也。七ツ過より天気しけてぬか
雨降ル。しかし、笠ニハ及はず。母君岩一郎小梅
三宅へ行。跡より豹藏来ル。ざとうよし野市ごせ
つちのト兩人琴三味合す。甚面白し。九ツ前帰
ル。留主中へ藤四郎来り、明日根来参りさそふ。
夫より豹藏村井定二郎をさそひニ行。砂とうづけ

式奴ノヲ岡崎やニて取。三宅へ土産。

十九日○七ツより起出、村井若旦那同道ニ而、根来へ行。留主中何事もなし。夜九ツ時分帰ル。

廿日○曇り少く寒し。日高やニて色々取。三宅へ礼かてら下ノすしニツ送る。宿ニてつけたる也。こり

木式拾奴ノヲ取。池田取次わりちん二百八文。元魚や長左衛門来り鉢かふ。三ツニて代九十文也。お安ヲ和歌や江遣ス。銭調立ノ為也。

廿一日○学校当番。山形や来り、花色ちちぶ六尺取、

代六匁貳分。酒五合、代老奴三分。坂本やニて唐紙ト丹ざく取。

廿二日曇り。評定所当番。夜、岩一郎ヲつれ、梅本藤四郎へ行。

廿三日○快晴。学校当番昼比る出ル。山形やニてとき物ト袖口トかふ也。代拾五匁、式奴程。村井ニ

行。

廿四日○志賀へ行。いつもの会日也。夜五ツ過る大ニ雷鳴也。ひやうふる。御扶持方出ル。三俵ト端

有。

廿五日○仏参本居へ立寄ル。岩一郎つれて母君行。又八ツ過る豹藏小出へ行。留主へ志賀鳴滝行さそひニ来ル。おとミ帰り手つたひ七ツ比帰ル。

廿六日○快晴。今日とく学及ひ同僚打揃ひ鳴滝ノ新飛泉ヲ見にゆくニ付、山本源五郎殿駕籠ニ而立寄るよしニ付、酒出スつもりニ而内ヲかた付さうじ仕相待居候処江藤四郎来り絵持参ニて打寄見いたる処へ、志賀ヨリ使来り鳴滝行延引ノ由告ル。右ハ源五郎殿少く快之由也。夫より藤四郎ニ酒出シいる処へ松下ヨリ直川参りさそひニ来。小梅跡よりお安ヲつれておひつく也。暮過ニ帰り上へあかるやイナ、山本彦十郎殿、志賀、伊藤立寄。酒出ス。志賀氏麦(マ)かふ。三百文ノ也。四ツ前帰られ候。醬油一樽来。

廿七日○忠兵衛手間老人つれ庭ノ垣くりニ来ル。今晚会ニて浅之介、林敬二郎来ル。

廿八日●今日高野御前へ参詣ノつもりニて、お鹿夜前

よりとまり候へとも、雨降ゆへ相やむ。四ツ過梅本ヨリ使来る。右ハ明日祭礼ゆへ参り候やうとの事也。米耆斗文兵衛ニヤル。代百匁也。耆メ九十文持参。

廿九日○山形や江払。七ツ過より家内梅本江祭ニよハれる。お鹿留主居ニ来ル。夜九ツ比帰ル。学校当番。

十月朔日○今日、厚信院様祭。ひもろき、松下氏ト供ニいたたき候。風呂たく。まわた耆匁五分ノかふ。

二日○お城当番。同所ニ而嶋氏ニ逢、咄度事有ニ付後刻三宅氏へ可参様約束ニ而八ツ過ヲ三宅へ行、夜五ツまへ帰宅、会ゆへ内ニ梅本、林来待居会相濟四ツまへ白井氏へ行、早速帰り相休ム。米百十七匁ニ相成よし、あまり安きゆへいまだうらず。

今日端米五升持参、駄賃つる式升遣ス。貴志ニ而真わた三匁ニ而かふ。代ふ払。

三日●岩一郎畑屋敷浅之介よりさそはれ芝居行。留主

中へ永井円左衛門ヨリ重組来ル。又跡ヲ円左衛門子ヲつれ来り本よむ。夕方三宅よりよひニ来ル。円左衛門ニかの重開キ酒盛。七ツ過岩一郎ヲ送り浅之介もともく重の品もてはやし、いつれも帰り、あるし三宅へ行、四ツ過かへる。

四日○夕べわるし。三宅ニ而約束して来りしゆへ、朝顔(カ)日記よミに小梅三宅氏へ行。しかし、今日ハ松下より松枝行さそはれ、母君岩ト同所へ行、留主ながら三宅へ行。七ツ比ヨリ山本彦十郎へ行ニ付、むかへに来ル。

五日●くもり。今日も三宅へ本よみニ小梅行、ゑかき夜帰り雨降。田宮ノ隠居門迄送りくれる。豹藏ハ戸口ノ菊の花見ニゆく。今日榎本清左衛門跡目ゆへ、清助方へ行、夜九ツ過帰ル。

六日●朝降四ツ過ヲ上ル。夕七ツ比お里ヲ使ニ遠藤蔵主方へヤル。扱付おくれしが、昨日初而岩一郎学校江つれゆく。永井円左衛門、其子、又外ノ子都合四人づれ。

七日●今日のこ也○八軒やゝ酒二升持参。夜会ニ而、林、梅本来ル。

八日○学校当番。池田よりりうきうおもて持参、代老步老朱也ト云。但し、八枚也。

九日○お里ヲ田宮へ使ニヤル。岩一郎も行し由、跡ニ而きく。袖ト大和柿かしの実もらひ帰ル。お安ヲ和歌や江ヤル。金子調立^(マ)ノ為也。但武拾文とのふ。又貴志氏より老步式朱かり受ル。池田へ老步老朱疊代払ふ。

十日●昼から天気能成。七ツ過々田宮儀右衛門来ル。

酒出ス。六ツ過、芳太郎袴持参遊ふ。岩とお里ヲ夏目江使ニヤル。五ツ過、藤四郎来り、同じく酒呑遊ひ、絵など書て九ツまへ帰らる。田宮隠居より丹さく送らる。紀州名所四ノ巻ト五トかす。酒老升取。絵二まい田宮、夏目へヤル。すがたゑ也。田宮へ静、夏目へほたる取。

十一日○寒し。藤四郎来り、からすミ持参、一ツ代八奴ノよし。あまり高きゆへかはず。千太郎遊ひに

来ル。岩一郎お里ヲつれ同所へ鳥かごかりニ行。行ちがひ。

十二日○ゑしき野ぎハへ行し処、風氣ニてねてゐるゆへふ逢。

池田より老朱金通用セす候へハかへすよし断言て持参。則キシより借用ゆへ亦同所へ二朱かへす。残り老步ノ借也。そなへ物など所々へくばる。池田へ右かわりニ金式朱遣し候。

十三日●時雨。八ツ比より水太夫君へ行。キシより老朱六ツ持来り何卒外ノ金トかへてもらふてくれと頼む。則、右も持行。夕方より空晴候へハ岩一郎ヲつれ母君畑屋敷梅本へ備へ物遣し、又かりありしあんくわもかへしがてら行。小梅一人留主居。夏目氏来れともかへる。戸口ノ者ほりゑかき右ヲ持参。

十四日○学校へ用事有行。夫より伊藤へ行。

十五日○快晴。八ツ比小出主計今日之会断ニ来ル。酒出ス○ミそつき。夕方小浜秀敬弟兵三ニあゆもた

せて来り早束婦○酒五合取、壺匁一分。夏目へ行はづなれともやめる。豆式斗取。

十六日○快晴。永井ノ子大柿五ツ持参。岩一郎付て行、よべれ帰ル。学校当番。七ツ過よりいづくへか行し跡へ、喜多野左右衛門来ル。となりへきし肴やニ大はも一ほうく、四代三匁三分、但式分引ス筈。右ヲ榎本清介へ跡目ノ悦として送る。お里道ヲふ知。母君をしへる。

十七日○永井円左衛門子ヲつれ本よミに来ル。酒出ス。下のすし出ス。酒壺升取。夕方下のすしトひやうたんへ酒壺盃つめて持行。小雨降出ス。四ツまへ帰ル。扱、明日芝居へ行ルかとさそふ。しかし、キシ隠居も此間中同道せんと言ゐるゆへ、老人行もいかかと夫をキシをさそへハ悦ひ俄こしらへする。夜八ツ比迄おき居て、髪など結。

十八日●六ツ時分を起てこしらへ芝居へ行。遠藤蔵主案内ゆへ茶やニ而待いる。岩一郎も同道。終日ミゆるすへ三宅よりよひニ来ルよしニ付六ツ過る同

所へ行。見代老人前百十六文。場三十二銅。忠臣蔵、切ハ堀川夜うち。

十九日○寒し。遠藤へお安ヲ礼ニやる。

廿日○少くもる。七ツ比蔵主来ル。酒出ス。酒五合取。今日きのへ子、天しや日。夜池田へ風呂へ入ニ行。

廿一日●夜夏目氏へ行、九ツ比帰宅。

廿二日○学校当番。鈴木芳右衛門殿の正像小梅写、則右ヲ同所江持参。

廿三日●八軒やより酒式升持参、但三匁がへ。夜村井へ行。三宅氏も同席也。九ツ時分帰ル。

廿四日○同僚会ニ而七ツ過皆揃ふ。朝野ぎハさいてう江行。絵認有之、則持帰ル。但、菊一枚ト岩橋ノ宅ヲ写たると也。小出主計来ル。明日ノ会ノ事申来ル。鈴木取次ニ而塩壺俵持参。鉢壺ツ求、代ハ拾文也。四ツ時分皆帰らる。

廿五日○御扶持方先老俵出ル。昼後、小出主計、市川斎、遠藤一郎今一人来ル。詩会。夕方より浅之介

来。唐紙五枚持参。かセ田やより唐紙壹本持参。酒五合取。肴や仙右衛門ニ而このしろ二ツ取。代四分。夜四ツ過皆帰ル。

廿六日○藤四郎昼前来ル。酒出ス。米や喜八へ米三斗払。代九拾三匁がへ。勘定ニ而廿七匁九分二厘受取。五升同所へ遣ス。是ハ諸物取し代り也。しかし、是でハマだたらす。

廿七日○明日ノすしつける。

廿八日○清天。今日鳴滝行。糸川、志賀さそいに来ル。八ツまへより行。山本彦十郎、伊藤ハ山本やうゑもんノ妻死去ニ付断ニ来ル。小出主計も行、帰りニハ楠本やへ寄、^(マシ)度して四ツ比帰ル。田宮へお里ヲヤル。

廿九日○十倉竜助来り、岡本伴次も病氣極大切ノよしきのふしらセ来りしか、今日又渡辺善左衛門来り伴次死去ノよし告る。しかし上へハ来月末ニ発するよし也。

晦日○右ニ付おとみを先よひよセ相つつしましめ候

也。豹藏学校当番ゆへ出勤。後より十倉ト佐々木へとむらひニ行。梅本を金巻歩かる。

十一月朔日○清天。今朝より大工来り北口ノ戸ヲなす。厚信院様ノひもろきいただき候様松下へ申セどもふ来。

二日○うらノ鈴木芳太郎千射ニ付岩一郎ニ見セにゆく。しかしもはや仕廻候而、夫より本居江立寄又遠藤へより夕方帰らる。豹藏ハ糸川江七ツまへより行、夜四ツ過帰ル。

三日●今日ハ鈴木芳右衛門殿ノ一周忌たい夜ニ付、家内参詣。五ツ過藏主同道ニ而帰ル。夫より酒巻寺取。どちやう汁にて酒出シ九ツ比帰ル。

四日曇。母君昼前よりお富ヲつれ、海善寺及び善能寺へ参。志賀ノ会ニ而八ツ過行。小出主計唐紙持参。一枚ニ付卷分四厘ノ由也。きのふ中嶋やニ而下駄式足取。二百文程。鈴木氏へらうそく十丁、ぜんまへ二百目香奠也。

五日○惣登城。しかしのしめニつかへてふ出。廻状を

大田岩橋楠松方へ持参。夜小出へ行。

六日○昼から曇ル。酒壱升取。遠藤蔵主を頼れてゑかき、上へ哥ヲかきて遣ス。但シ、岩ニ菊トれいし、梅、岩なしの菊ト又梅、都合五まいお安ニもたせ遣ス。今朝、黒田の妻女よりゑ本かりニコす。すいばだい四さつ、淨るり本一さつ合五さつかす。田中清二郎ヨリ茶ノこよこす。八田へたいやのよし也。

七日●佐々木弥三郎来る。昼飯出ス。昼から松下氏も来ル。となり法支参り留主頼る。池田キシ法事参。

八日○今朝より岩一郎小々ふ快。昼飯ふ喰。つぶ千六百五十畑屋敷へ持参。市川斎と云人詩ヲ頼ニ来ル。金糖耒わけくれる。

九日○昼より行。夜三宅氏へ岩橋同道ニ而行。大酒して夜四ツ時分帰る。さいてうニかかせし菊ノゑ持行、帰りニうしなふ。

十日○津田幸二郎ヨリいはひノ餅来ル。おとミの妹ま

つのおち渡辺善左衛門をつかいに来る。ふしの岩ヲ見廻に来る。夜浅之介来る。三宅家内来る筈なれとも岩一郎ふ快ゆへ断。

十一日○学校江山本彦十郎ノ代勤ニ行。大工亀之介はしり持来り仕すける。一日はたらく○鈴木権左衛門を妻病死ノよしつげ来る。嘉兵衛ヲてうちん出しに遣ス。唐帟三枚浅之介宅ニ而取。

十二日○長七くハ持参ちい百文也。大工今日切也。兄貴ニコ、亀之介一ヨ三分、車力一日半。惣合。

はしり 六匁
□(ムシ) 四匁

木

夕方南鐮一片貴志ニ而借用。二十四文ノ肴ヲ魚九ニ而取。

十三日○母君仏参。大工久兵衛来る。南鐮一片遣ス。残り。風呂たく。

十四日○山本ノ会ニ而八ッ過る行。つぶる持参。夜藤四郎来ル。かゆ出ス。

十五日○快晴。今日祭礼。早朝錢調立ノ為ニ和歌やへ

お安ヲヤル。但老ノ二百文。畑屋敷梅本千太郎袴着ゆへ参り候様こと、夜前藤四郎申来れとも、岩

一郎いまた全快ならされハ断言。主人斗行。千太

郎ヲつれ、合羽や長兵衛お直もり五人つれて来る。酒出ス。梅ノゑニ哥かきてやる○八軒や酒や

より酒老升持参。永井より岩一郎ヲむかへに来れともふ快ニ付ふ行。肴や来り鯛・ゑび・くずし

取。

梅ノ哥

小梅画

ゑミのまゆひらくる梅の初花を

千代かけて見ることやうれしき

建女

夜主人行帰りニ産持帰ル。永井よりも肴三尾送らる。

十六日○風有て甚寒し。きのふノ代りに今日八ツ時分

々参り候様ニと梅本ニ申され候へとも、いまた岩

一郎ふ快ゆへふ行。七ツ前より主人立寄。田宮氏

とうかんの会ニ而行帰りニ林修道へ立寄、悴岩一

郎ヲ見てほしき由言。

十七日○甚風立寒し。ゆき少々降。扱、此間中々頼置

しゆへ田宮秀伯昼過見廻ニ来ル。岩一郎少々ながら時気当りノ由、則棄五服くれる。小豆嶋利吉も

来る。めし出し姿絵一まいやる。主人お城当番ニ而朝登城し帰りし処へ岩はし楠松も来り、明日広

瀬水大夫君へ参るニ付何そさしあけてよからふか、又京へ御登被成帰られて後さしあくへき哉いなやヲ相談ニ参られし也。則昼時分ゆへ酒出ス。

しかし、いそきめしハたへす。学校へ当番なりとていそきかへられ候。扱、八ツ過又夜前頼置しゆへ林修道も見廻ニくる。岩一郎ヲ見て是ハやはり

虫の気也と言。薬五ふくくれる。人んじん入てよしと言ニ付、則今晚ハ錢喜の書物頼母子ゆへ行。

序ニ岡崎やニ而人参半両取来る。代式匄五分と言。扱又、セニ喜ニ而ぶらり取箱入ノ墨老挺也。

都合薬十一服也。塚山ノ養子篤之介礼ニ来ル。

十八日○水大夫君ノ方江同僚よばれる。所ハかから町

元直十の下屋敷、今ハ会やと成よし。夜四ツ過帰ル。小出かずへ詩持参。今日も岩一郎同様。

十九日○今日田宮儀右衛門来ル。夜浅之介岩一郎を見廻ニ来ル。遠藤藏主も来。かたへさそへ共ふ行ニ付、さいせんことづける。

廿日○快晴。朝田宮ニ而薬五ふく貫同様。又、昼から林へ薬取ニお里をやる。岩一郎好ニ付くき大根一本かひニやる、十文也。池田より耳酒もらひ岩一郎たべる。本居ゝ使来ル。一位様へ祝ひ哥さしあげるニ付丹ざく江認めさしあげ申様ニとの事也。林ニ而薬六服取来ル。夜又林へ行。大黄一服取来り是を五服ノ内へ入ル。此夜大分通し有て快く相成。

廿一日○今朝小梅金ひらへ立願。今日より六日塩ぢぢ。母君高野御前へ御わひ五日しやうじんする。大分岩一郎快くゑなとうつす。昼時分林修道来り、昼過田宮来る。梅本藤四郎来り、銀札十五枚持参。大工来り札十三枚トセに三十文木ト工料五百四十

文ひよう手間遣ス。主人大田岩橋行。小出かずへ来る。ミつかん少くくれる。

廿二日○快晴。朝田宮ニ而薬五服取来ル。藤四郎も見廻ニ来ル。昼から梅本より見廻くれる。但かつをぶし一本ににまめなり。主人学校当番。百七十五文つぶ千六百五十ノ代として梅本より持参。百文長七へくわノ代遣ス。

廿三日○快晴。田宮見廻ニ来ル。岩一郎大分快。風呂たく。

廿四日御扶持方出ル。老倭式斗壱升也。川三へ老倭合式倭式斗壱升也。千太郎つれ畑屋敷ノもりお安来ル。かゆ振廻。いつもの会ニ而伊藤江主人行。御こころミの廻状来ルニ付永井ト夏目へしらす○田宮ニ而薬五服取来ル。

廿五日○快晴。松下貴志より赤めし貫。池田ニ風呂たく。母君入ニ行。市川斎来ル。米やへ米老倭遣ス。石九拾五匁ニ而三拾八匁也。内式歩式朱ト壱分九り銭。金六拾目五分ノ勘定也。内壱朱小梅へ。

廿六日○御快ニ而五ツ前より主人出ル。暮ニ帰。夜松

下お唇見舞ニ来ル。菓子疋袋持参。母君本居へお

里をつれ行。一位様ノ御祝ひ哥持参。扱又此度上

ノ御蔵へ賊入りしはなしを聞に廿日ノ朝さうじに

行し者御蔵ノ戸明有しを見付かくと知らすにより

皆々打寄て見るにぞく入しと見へ、そこらに金落

ちりたり。夫より蔵の内きんミあるにそとのじや

うねち切又二重目(傍線部分は見せ消し) 昼程茶屋

よりはた銀納めに来りしを其儘取金高凡三千八百

九十両ノ由也。かなてこをわすれしか置有。是ハ

先年此御蔵ニ而うせたりし物也。其節ハ外のじや

うト二重目のじやう迄ねち切けれと今一重ニなり

てゑあけすニかなてこを持帰りし事有。しかるに、

此度ハ外も二重目も其儘にて金の有処の窓より入

りしを見れハ先年の者なるへし。始終勝手おぼへ

し者心をかけいたる事知れたれども、何の手かか

りもなければ先其夜相つめし者どもをいましめた

り。同心北町矢師庄七ノ倅武一郎米や文兵衛の倅

今吾人ハ六十有余の老人皆かしらへ御あつけ也。

吉田外記へ武一郎あつけらる。年齡廿ニたらぬ者

也。文兵衛倅ハ十一二の者也。皆夫々にあつけら

る。両親なげきかなしめとも今ニしれず。雑せつ

まらゝ也。とかい舟ニのりしや。くしをかちと

せしなどいへともさたかならず。されと御舟手へ

もきんミかかり役人行見しに、御舟蔵のおせきの

中に住居る者有人々を見ておとろきにけたれとも

やうゝにとらへしか、是ハ又へつの者也。お舟

の中にふとんしき、なへなと有しよしうはさ有

○此度前大納言様一位にならせられたり。或時昼

の御膳さし上げれハすてにめしあからんと遊ハセ

し時、江戸より御状参り奉書へ認めしを持出御覧

ニ入るに、御手に取直され一目御覧有て大ニ御悦

ひ遊され、座を立給ひ、いつれも見よや。此度我

一位になりし也。是ニましたるうれしきハなし。

おれハもふめしハくわすともよしとの給ひ、御し

やうぞく出し給ひめして御覧しける。扱又いつも

御前へ出るあま有けるか、今日も御前ニ出けれ
ハ、大納言様仰らるるハ、いかにあまよ、我一位

ニ成けりと御意ある。あま誠ニ御目出度候とか
しら下ると、又仰られけるハ、一位とハもはや神
の位成そとの給ふ。あま両手を合セふしおかみ奉
て、あら有難や、万万年もおはしませとおかミけ
る者ひれふしける。ややありて顔をあげ御面を見
奉れハ、上ニハ御落涙遊しけると也○扱其後江戸
より御時ふく五十重ねしんぜられける。いづれも
下ミ見なれぬけつかう成品ミなれハ一統へ拝見仰
付らるる也。備前国宗の大わざ物ノ御たちも有し
と南。大黄金七十枚も有。

廿七日○昼から豹藏糸川三宅へ行。のしめ受ル。代金
壹歩貳朱と八十八文。元ハ壹歩壹朱ト二百文也。

お安行。

廿八日○今日惣登城。一位様御城江御出張遊し、此度
初て御将束遊され一統へ御見せ被遊。貳朱一貴志
へかへす。まだ壹歩ノかり。

廿九日田宮氏より手帑米。朔日ハ男袴着ゆへ可参由ノ
事。お安黒キきれかひ行。

十二月朔日○田宮見廻ニ来り、岩一郎もはや快よしを
言。しかし風呂へハ五六日も立候て入候へとの
事。八ツ過ガ水野君へ行。糸川へ行。浅檀江立寄
。岩橋同道ニ而田宮へ行九ツ比婦宅。夕方、三宅
槌三郎手札認候様ニと頼ニ来ル。炭壹俵文兵衛ガ
持参。

二日○夕方、有馬よりよふニ付主人行。酒壹升八軒や
より持参。是ハ朔日ノ事也。夜はたや敷へ行。

三日○評定所当番ニ而朝出ル。金壹歩貴志へかへす。

四日●当番学校江行。七ツ比ガいつもの会ゆへ山本、

志ガ、岩橋、糸川、伊藤来ル。しかし伊藤ハ召状
致来ニ付帰ル。八軒やヨリ酒壹升持参○泉やニ而
壹升取。山本彦十郎殿ニ岩一郎なつと兎籠もら
ふ。

五日○朝ノ内大ニ雨降て早束上ル。伊藤恭蔵五石御加
増ニ而三十石高ニ相成。雑肴一台伊藤ガ持参。則

是ヲ水野君へさし上る。但シ山本彦十郎、岩橋、志賀、伊藤、川合、糸川合六人ノ名前也。暮方松下氏来ル。同道ニ而伊藤江行。

六日●主人目あしく令休業。水野君より贈りし由ニ而いな十六山本より持参。右ノ内九ツ田宮儀右衛門俣袴着ノ祝義ニ贈る。おとみ使。又七ツ足袋老足添梅本藤四郎俣袴着ノ祝義ニ送る。嘉兵衛使。暮方ヨリ砂山ノ山本源五郎殿江行三更ノ比帰ル。

七日●伊勢より大神宮納む。田宮儀右衛門来ル。

八日○三宅兵右衛門殿来られ直ニ帰らる。夜又兵蔵三宅へ行。田宮の隠居来ているよしにて紀務名所二さつかへさる。又三冊かす。四六ノ上同下ト也。

春大根百五拾本其邊村新右衛門俣久米太郎持参、代八十本ニ而三匁ノやく束。先銀札二枚相渡す。

浅之介本持参。

九日●朝三宅々使来、朝顔日記かす。夕方ヨリ主人畑屋敷へゆく。

十日○殊之外寒し。正月分御扶持方出ル。杓石三斗六

升。此月ハ川三へやらす皆取。貴志隠居来り先達而かりし七拾五匁此度返納可致様言。扱九升たけ。三俵ト杓石六升来ル。学校当番ニて昼比出ル。田宮より断来ルニ付梅本迄主人行。母君金ひら参り。風有寒し。嘉兵衛米つき。白井々廻状来ル文言。

一位様御名代を以御位階御昇進之御礼被仰上候。為御祝義明後十一日大納言様江

御目見以上惣登城謁引続 一位様江為御祝儀同様謁有之のしめ半袴着四時揃之筈候間夫々申合可有候
十二月九日

十一日○今日謁有之惣登城なれ共引。昼比より用事ニ付ニ付学校行。喜八へ米式俵払。勘定差引三步三朱三百八文請取。石九拾六匁がへ。夜畑屋敷へ行。

十二日○快晴。忠兵衛来ル。菊ほうそうする由申。古しやうノ一ツかつをふし杓本遣す。伊藤へ銀札

十枚いわひ遣ス。是ハ志賀、岩橋、川合、白井、糸川五人分屯人前二匁ツ、。

十三日〇

十四日●学校当番ニて行。列年之通銀拾六兩被下。外

ニ老步式朱。是ハ学校御普請之節出精相勤候ニ付被下物也。田宮よりくら火鯛一ツトたこと寒氣見舞。右ヲ喜多村隼人病氣ニ付見舞ニ遣ス。黒田より本かへしニ来ル。庭の水仙トつるしにかき送らる。梅本ます代岩一郎ヲ見舞ニ来ル。かつをぶし一本とまんぢうくれる。志賀の会ゆへ豹蔵すぐにゆく。

十五日〇主人寒氣見舞ニ行。水大夫君にて酒頂戴。今日渡辺善左衛門年々銀五まいツ、頂戴礼ニ夕方来ル。

十六日〇今日母君ノ願かけしゆへ高野御前へ参詣。豹蔵も行。浅之介さそひに寄る。岩一郎の御礼参り〇佐々木弥三郎伴次ノ事ニ付来ル〇錢喜々赤砂糖一袋祝義ニ送らる〇彦十郎殿明日学校江山中筑

後殿御出之筈之処先延引ニ相成よし告る〇戸口二郎寒氣見舞ニ来ル〇神前丈之介礼ニ来ル〇たばこや来。おやす米つき。七ツまへ比婦宅ス。夜むかへ東氏より使来ル。絵を頼ニ来ル。小豆くれる。

十七日〇風呂たく。三宅氏へ主人行。

十八日〇快晴也。永井礼ニ来。長坂愛之介寒氣見廻ニ来ル。夕方より中ノ丁山本へ行。此度一位様へ御悦として着上られし処御盃頂戴いたし由ニ而一統へ風聴ノ為酒振廻。田中万作来ル。酒券一ひけこす持参。

十九日●曇りて寒し。伴次今晚葬式ノ由。七ツ比お富をつれて母君行。しかし明日ノ由。

廿日今日伴次葬式ノ由松のしらせニ来ル。川口屋三右衛門ニ而金二両借用。夕方よりお富お里をつれ佐々木へゆく。豊やニへり代式朱ト札一枚渡ス。

廿一日〇今日天社日。豊や義八来り豊八豊さす。殊之外寒し。

廿二日○外出より静古堂ヲよこし唐紙かへす筈、もは

や十疋奴ニまけ候間御取被成置候様ニと申ニ付唐紙十枚求。夏目より使者来り今晚参候様ニと言。

廿三日○糸川弥藏来り酒出ス。百文ノ酒買。小きよ大根一わ持来ル。

廿四日○すすはらい。少く曇ル。嘉兵衛天井(はカ)らふ。

田宮義右衛門来ル。直ニ帰ル。此夜山本彦十郎来り、かねて願置し拝借願ノ通相濟。無利足ニ而月々御扶持方ノ内ニ而押へる筈、五年賦也。酒壱升泉やニ而取。仙右衛門ニ而ふかのす味噌取代。

廿五日○彦十郎殿来ル。七ツ比々豹藏大田村岩橋氏へ行。酒券壱ツトかれノ干物五ツと持行、帰り(ムシ)ニ□のり五六わ貰帰ル。

廿六日○今日いわ井嘉兵衛餅つき。お安手合し。

廿七日○夜大風雨。夜藤四郎方へ行。百三十ノかう油トかれ二ツト歳暮祝義ニ送る。

廿八日○風有寒し。今日拝借相濟、山本、立石水野なとへ御礼ニ行。帰りニ岩はしニ逢、つれ帰りさけ

出ス。貳百目ヲ銀札とかへてくる。鈴木へ行しニ

芳太郎留主ゆへ帰る。喜多村々南一松下への持参。

廿九日○夜浅之介方へ行。新右衛門こへ代廿四匁持参。外ニ大根百五十本代四百五十文内二匁渡ス。

夜畑屋敷へ行。足袋一足貰。かんき丁ニ而黒豆壱升貰。酒券二。有地藤右衛門ら貰。右ハ名のりかへし謝礼。

大晦日○賄役所へ行。池田ニ風呂たくゆへ入ニ行。宿ニ者たかす。足袋壱足賄役所へ持参。

快晴廿四日也。

此年者大凶年也。人多死。

此節米 九拾匁代

○餅米 壱斗五升ヲ金壱歩式匁也。

○白けあわ 壱升ニ付代百廿四文。

○小豆 壱升ニ付代百六拾文。

○黒まめ 壱升ニ付代百五十六文。

○砂糖 壱斤ニ付代

酒 壹升ニ付代貳匁六分位。

ひなご 壹ツ 壹文ツ、。

数の子 壹升ニ付代

みかん 壹文がへ。

くし柿 一ツ安キ方十八文より十五文位。

いも 壹升三十文。

大根 壹本二文ツ、ニ当る。

塩

(以上で本文終り。なお裏表紙に次の記載あり)

^(ママ) 還海異聞五月十一日昼過々写しかけ諸用事のいとまに

うつけハ八月四日までてやうく終る。しかし絵の所

十ヶ所程残る。

惣入用之扣

(以上で、天保八年の分は終り)